

# ☆島こいプロジェクト☆

モデル公民館(H24～H25)  
隠岐の島町中央公民館

〔取組の概要〕 若者が集うための仕組みとして立ち上げた「島こいプロジェクト実行委員会」では、若者自身が精力的に交流事業を企画・運営している。実行委員会メンバーは徐々に増加しており、新たな交流・出会いの機会が次々に創出されている。

## 1 本事業に取り組もうと思った理由

島の人口減少（特に若者減少）問題に公民館として何か出来ることはないかという思いから、この事業はスタートした。島の定住促進と少子化対策として、「婚活事業」を実施し、若者たちの『出会いの場を創出』すること。また、普段は公民館に立ち寄ることが少ない若者たちが、この事業を実施することで公民館に「集う」ことを目的に平成23年度から取組を始めた。

隠岐の島町は、平成16年10月に西郷町、布施村、五箇村、都万村の1町3村が合併して誕生した。合併時の人口は、1万7,613人だったが、平成22年3月には、1万5,874人と、約5年間で1,739人も減少。この間、町の施策として、医療の充実、企業誘致による定住促進、子育て支援、少子化対策などに取り組んできたが、人口減少の歯止めには至らなかった。

そこで、公民館サイドから少子化対策の一つとして何か出来ないだろうかと思いを付けたのが、当時、巷でブームとなっていた『婚活』であった。公民館が持っている人が「集い」、「学び」、そして「結ぶ」機能を生かし、今までにない取り組みに挑戦しようと考えた。事業のコンセプトはこのようなものであった。人を集めて楽しませることは、公民館の得意技。そこに生まれる「結ぶ」にちょっとしたエッセンス（工夫）を加えて「愛」を实らせ「出会いから結婚」へと繋げる。これは、若者の定住促進と少子化対策に一石を投じるものと考えた。公民館らしく、島の活性化に働きかけることも大きな目的のひとつであった。

## 2 公民館としての仕掛け

### (1) スタートはしたものの・・・

一年目の平成23年度は、公民館が主体となり様々な「婚活イベント」を毎月企画・開催した。開催するにあたり、まず考えたことは、「出会い」をいかに演出できるかということだった。公民館の得意技でもある「人集め」であったが、「婚活」となると話は違った。事業実施を幅広く宣伝し、多くの若者に集ってもらうため、町内各所の企業・団体に毎月チラシを送付したり、町のホームページや公民館ニュースを活用したりするなど、イベントの周知に力を入れ参加者を募った。最初は興味本位で集まっていた参加者も、狭い地域であるが故の恥ずかしさや周りからの冷やかしなどにより、徐々に減っていき、参加者が固定化され盛り上がり欠けるものになった。また、毎月イベントを実施したことで、公民館職員が企画だけで精一杯となり、事業内容の検証が出来ず、ただ回数をこなすだけの若者のニーズに合っていないイベント、参加しにくい内容になっていった。

### (2) 実行委員会設立

二年目の平成24年度は、前年度の反省をふまえ、公民館職員だけでは企画・運営面に限界を感じていたため、町内各事業所（役場、病院、観光協会、商工会、森林組合など）で働く若者10名程に声をかけ、婚活を前面に出さずに若者が集うことを目的とした『島こいプロジェクト実行委員会』を設立し、若者の柔軟な発想力、企画力などを期待した。しかしながら、事務局の期待とは裏腹に各組織から任命された委員（自分の意志ではなく参加している場合もあり）では、積極的な事業提案が少なく、事務局提案での事業展開がほとんどとなり、若者の意見が反映されなかったように感じた。

### (3) ターニングポイント！！

三年目の平成25年度は、昨年度のままでは同じ事業展開になると危惧していたため、より若者の意見

を反映させるために各組織からピックアップした委員の枠を取り払い、自ら参加を希望する者、またはそれに誘われた若者、未婚既婚を問わずに実行委員会を再編成した。新たな実行委員を選出するにあたり重要視したのは、

◎「やる気」があること

◎小さくても良いので地域や若者たちの間にネットワークを持っているということ

であった。積極的な企画・提案はもちろんのこと、町内の数ある若者たちの小さなネットワークの一つ一つを結びつけ、より大きなネットワークを形成することも期待した。昨年度、積極的にイベントに係わったメンバーを中心に今年度は24名の若者が実行委員として『島こいプロジェクト実行委員会』に参加し、自分たちが行いたい事業を、それぞれが企画・提案し、イベントを実施することが出来るようになった。

また、Facebook や LINE などの SNS を活用したり、各委員の持つネットワークで輪が広がり、イベントの参加者が増加した。



### 3 事業の成果(地域の変容・公民館の変容)

実行委員会の中で全体を取りまとめる男性・女性それぞれのリーダーも生まれ、若者たちの自由な発想により、沢山の楽しいイベントを実施することが出来た。中でも、9月に開催した『島友フェスタ』では、島こいプロジェクト実行委員会と他団体(まちづくり運動協議会、結婚をきっかけとした絆づくり推進委員会など)との協同で地域を巻き込んだイベントとして、Sea級屋台村・ブライダルファッションショーなどを行い大いに盛り上がり、地域の活性化にも繋がった。

その他、各種団体が企画したイベント(夏祭り、ビーチクリーン作戦、キャンドルナイトなど)にも島こいメンバーが積極的に参加し交流したことで、島こいプロジェクトの認知度も徐々に上がり、よりネットワークが広がって、人と人との繋がりが大きくなってきている。

このような様々な交流事業が、多くの出会いを生み、若者層の意識を変え、行動力が高まり、その力が地域力アップに繋がっていると感じる。

また、この事業のお蔭で公民館に若者が集まる機会が増えたことにより、若者の公民館に対する「堅い」「立ち寄りにくい」などのマイナスイメージが少しずつ緩和され、島こいプロジェクト以外の公民館事業の情報提供も行うことができ、若者が公民館事業に参加しやすくなり、参加者が増えたのも成果のひとつである。



### 4 公民館として「地域力」を醸成するために大切にしてきたこと

#### (1) 若者が公民館に「集う」核を育てる

若者が集うためには、中核となる人が大切である。公民館として事業の中核となる適任者を選ぶには常にアンテナを高くし、地域の人との繋がりや、各活動での様子や思いを感じることに出来る職員の資質の向上が大切である。

#### (2) 徹底したバックアップ・フォロー

事業実施の際には、若者たちが企画立案した事業については、出来るだけそのままの形で実現できるようにサポートすること。結果として、その企画が失敗であったとしても OK とし、事務局としてはバックアップ、フォローに努めること。若者の思いを実現させることが大事。

#### (3) ネットワークを「結ぶ」

町内の小さなネットワークの一つ一つを結んで大きなネットワークを作ることが大切である。ネットワークが広がれば、活動の輪も広がり、より多くの『出会いの場の創出』に繋がる。

○ネットワーク作りは、まだまだ途中の段階であるが、今後も『島こいプロジェクト実行委員会』が積極的に活動し、出来るだけ多くの若者が参加しやすい企画・イベントを計画することで、より多くの『出会いの場』が創出されることを期待している。

○町内の若者層の活動が活発になれば、地域力醸成はもとより、多くの交流や出会いが結婚のきっかけとなり、当初の事業目標でもあった定住促進、少子化対策にも繋がっていくことを願っている。